



サイエンスアゴラ 2006

科学と社会をつなぐ
広場をつくる

<http://www.scienceagora.jp/top.html>

ミニフォーラム

細胞をつくる?!

～先端バイオの現場から

11/26 (日) 16:00-18:00 科学未来館
(MeSci, 東京・台場) 7F 第3会議室

パネリスト+コメンテーター

- 上田 泰己 (理化学研究所 チームリーダー)
- 加藤 和人 (京都大学 助教授)
- 木賀 大介 (東京工業大学 助教授)
- 林 真理 (工学院大学 助教授)
- 岩崎 秀雄 (早稲田大学 助教授) (企画・進行)



H. Ueda



D. Kiga



K. Kato



M. Hayashi



H. Iwasaki

ポストゲノム時代を迎え、構成生物学と呼ばれる分野では、生命の基本単位「細胞」を、生体高分子を組み合わせ再構成できるか、議論が始まっています。

何を目標しているのでしょうか？

そんなものを作っても大丈夫なのでしょうか？

いったい、どんな細胞を創ろうとしているのでしょうか？

新進気鋭の生命科学者と科学の歴史や社会の研究者が、
研究の魅力や現状、課題について、本音で語り合います。

みなさんも、ぜひ疑問や意見をぶつけてみてください。

Synthetic Cell?

科学と社会の架け橋となるイベント「サイエンスアゴラ」（11月25-27日、東京・台場）の一環として、「細胞を創る?! 先端バイオの現場から」と題するミニフォーラムを開催します。

ポストゲノム時代を迎えたいま、生命科学では多くの新しい試みが模索されています。今までの生物学では、特定の生命現象に関わる部品（たんぱく質や遺伝子）を探しあて、その機能を一つ一つ明らかにしていくことが重要なテーマでした。しかし最近では、こうした部品を組み合わせることで生物の機能を再現したり、新たにデザインしたりする分野（構成生物学）が登場してきました。その最前線では、生命の基本単位とされる「細胞」を、実際に生体高分子を組み合わせることで再構成できるか、真剣に議論されはじめています。そう聞くと、いろいろな興味や疑問が湧いてきませんか？

いったい、どんな細胞を創ろうとしているのでしょうか？ その魅力とはなんなのでしょうか？ 今の技術でどのくらい実現可能なのでしょうか？ 何を狙っているのでしょうか？ そんなものを作っても本当に大丈夫なのでしょうか？ どんな応用があるのでしょうか？

まずは新進気鋭の現場の生命学者たち（上田さん、木賀さん）に、研究の魅力や課題について存分に語ってまいりましょう。科学と社会について研究している加藤さんや林さんには、それぞれのお立場から鋭いツッコミを入れていただきます。皆さんも、彼らにいろいろな疑問や意見をぶつけてみてください。こうした対話を通して、生命科学の現在と未来について、興味や問題意識を広く共有できるようになれば、と思っています。どうぞお気軽にご参加ください。

パネリスト+コメンテーター

上田 泰己 Hiroki R. Ueda

理化学研究所 再生発生総合科学研究センター・チームリーダー（システムバイオロジー・機能ゲノミクス）

木賀 大介 Daisuke Kiga

東京工業大学 大学院理工学研究科・助教授（構成生物学・生体分子コンピューター）

加藤 和人 Kazuto Kato

京都大学 人文科学研究所+大学院生命科学研究科・助教授（科学コミュニケーション・現代生命科学史・生命倫理）

林 真理 Makoto Hayashi

工学院大学 工学部 助教授（生物学史・科学社会論・生命倫理）

企画・進行

岩崎 秀雄 Hideo Iwasaki

早稲田大学 理工学部・助教授（細胞分子生物学・生命文化誌・現代美術）

* 入場無料・事前申し込みは必要ありません

お問い合わせ：早稲田大学 岩崎研究室 hideo-iwasaki@waseda.jp, Tel. 03-5286-3413

●会場アクセス

■日本科学未来館

〒135-0064 東京都江東区青海2-41

http://www.miraikan.jst.go.jp/j/guide/map_index.html



■アクセス

新交通ゆりかもめ

「船の科学館駅」下車、徒歩約5分

「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分

東京臨海高速鉄道りんかい線

「東京テレポート駅」下車、徒歩約15分

